

授業コード	T4002		
授業科目名	言語と文化Ⅰ 韓国(前)		
担当者名	金 泰虎(キム テホ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜3限
特記事項	2008年度以降入学生用 履修要項の「国際言語文化科目の概要」を参照。		
オフィスアワー	金曜日 10時40分～12時10分(アポイント必要)		

講義の内容	韓国語と朝鮮語という名称の違いを明確に提議して、韓国語使用圏の環境、言語の歴史、ひいては前近代における日韓交流と、その狭間で言語を媒介にして活動した通事(通訳官)に着目して学習する。資料や史料の分析を通して、言語やそれに関わる周辺事情を具体的に把握し、韓国語全般に関わる知識とその理解を深める。
到達目標	韓国語と朝鮮語という用語の違いを認識し、韓国語の変遷について理解することを目指す。なお、前近代の日韓における言語を媒介にした通訳官の活動が把握できることを目標とする。
講義方法	韓国語と朝鮮語の意味合いを明らかにして、韓国語圏の自然環境、言語の歴史や特徴、日韓交流や通事を取り上げて、日本語で分かりやすく講義する。必要に応じて、画像・映像(DVD・ビデオ)を用いて授業を行う。学習者にはテーマに沿って発表も行ってもらい、積極的に授業に取り組むように指導する。
準備学習	講義構成に基づいて事前に講義内容を調べて予習すること。
成績評価	定期試験は実施せず、講義時の対応(40%)、発表(30%)、課題(30%)をもって評価する。
講義構成	<前期> 回数 授業内容 第1～2回 導入、韓国語と朝鮮語 第3～4回 韓国語使用圏 第5～6回 韓国語の歴史 第7～8回 朝鮮通信使(1) 第9～10回 朝鮮通信使(2) 第11～12回 前近代における日韓の通事 第13～14回 倭館と兩森芳州
教科書	なし。毎回、講義資料を配布する。
参考書・資料	『韓国語教育の理論と実際』(白帝社) 『朝鮮の歴史と文化』(明石書店) 『ハンゲルの成立と歴史』(大修館書店) 『日朝交流史』(有斐閣) 『朝鮮通信使の研究』(思文閣) 『兩森芳州』(中公新書) 『倭館』(文春新書)
講義関連事項	日韓は、古くから交流が行われ、特に江戸時代には朝鮮通信使の使節団が日本を訪ねた。この使節団が江戸に着くまでに立ち寄ったゆかりの場所を訪ねてみて下さい。

担当者から一言	<p>韓国語の学習だけではなく、韓国語の変遷や前近代における日韓交流の中で言語を媒介にして生きていた通訳官について学んでみませんか。</p> <p>以下の情報も参考にして下さい。</p> <p>①学習相談アワー 毎週の水曜日、12時20分から12時50分まで、韓国語指導室(6号館653号室)で、専任教員が皆さんの相談に応じています。どのような相談でも結構です。ぜひ、訪ねてみて下さい。</p> <p>②韓国語チューター制度 前期10回・後期10回(月曜日15:00～17:00、金曜日12:00～14:00)にわたって、チューターが韓国語指導室(6号館653号室)で、皆さんの質問に応じています。</p> <p>③韓国語合宿 毎年、韓国語受講生を対象に平生記念館(御影)で2泊3日の合宿(開催時期は毎年異なる)を行っていますので、奮って参加して下さい。韓国語や韓国文化の勉強はもとより、皆さんが交流を深める良い機会になると思います。</p> <p>④語学優秀賞制度 一定の科目を受講すれば、受賞できます。詳しくは、ゼフィールを参考にするか、あるいは国際言語文化センター、もしくは専任教員にまで尋ねて下さい。</p> <p>⑤韓国語検定試験 甲南大学は2つの検定試験(「ハンゲル能力検定試験」・「世界韓国語認証試験(KLPT)」)の試験会場になっ</p>
---------	---

	<p>ています。自分の実力を確認するためにも、ぜひ受けてみてください。</p> <p>⑥夏期講座 毎年、夏休みの間(8月)の約4週間、韓国(ソウル)の漢陽大学校で語学研修を実施しています。</p> <p>⑦長期留学 甲南大学と漢陽大学校は協定を結んでおり、毎年、1年間の長期留學生を交換しています。留学先の韓国では学費を払う必要はなく、無料で寮が提供されます。</p> <p>⑧秋の踏査 毎年11月中旬(日曜日)、韓国語受講生を対象に日韓交流ゆかりの場所を訪ねる日帰りの踏査を行っています。</p>
--	---

授業コード	T3002		
授業科目名	言語と文化Ⅰ 中国(前)		
担当者名	石井康一(イシイ コウイチ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜3限
特記事項	2008年度以降入学生用 履修要項の「国際言語文化科目の概要」を参照。		
オフィスアワー	月曜3限・金曜2限		

講義の内容	「映画・演劇・テレビドラマを通してみる中国の歴史と文化」 中国の映画・演劇・テレビドラマ・流行歌を通して、その歴史と文化を学びます。映像等の理解に必要な背景知識を詳しく解説し、毎回の授業終了後に提出してもらいレポートを重視します。具体例に即して異文化としての特質を捉え、自分自身の中国文化論を組み立てていってもらいます。次回の授業で他の学生のさまざまな受けとめ方を知ることで、自身の中国文理解を深めてもらいます。
到達目標	中国文化は日本文化に大きく影響を与えた。同じ漢字文化圏ではあるが、両国の社会制度や生活習慣がかなり異なる。本講義は日本文化と中国文化の共通点と相違点に着目して、衣、食、住、風俗習慣、人情、家庭、教育、思考方式、価値観など幅広い分野を取り上げ、中国文化を学習していくと同時に相互理解を深めていくことを到達目標とする。
講義方法	具体的なテーマを設定して、講義をしてから学生諸君に中国語で自分の意見を発表したり、ディスカッションをしたりすることを通して中国文化の基礎的な知識と語学の習得が一度に出来るように工夫していく。学生諸君には、中国文化や社会を楽しみながら学習してもらおうと同時に、自分自身の語学力を一層高めもらう。
準備学習	中国に関する本を自発的に読むこと、中国に関する新聞記事・テレビ番組に関心を持つこと、中国映画を積極的に見ること。
成績評価	毎回の授業内容に関する考察レポートを40%とし、期末試験を60%とする。
講義構成	<ol style="list-style-type: none"> 1. 導論：中国の歴史と文化とは 2. 「我的兄弟姐妹(再見 また逢う日まで)」：中国人の家族観 3. 「北京好日(楽しみ探して)」：同時代を生きる人々 4. 社会主義映画の流れと「生きる」(上) 5. 社会主義映画の流れと「生きる」(下) 6. 中国映画の新しい流れと「黄色い大地」 7. 改革開放時代の幕開けと「逆光」 8. 話劇「茶館」と20世紀中国の歴史(上) 9. 話劇「茶館」と20世紀中国の歴史(下) 10. 伝統と近代化と「心の香り」 11. 連続テレビドラマ「一年又一年」「環球格格」 12. 中国独自のアニメ映画の世界 13. 短編映像を通してを知る中国の歴史と文化 14. 流行歌にうつされる中国の歴史と文化 15. 試験
教科書	プリント配布
参考書・資料	『中華人民共和国史』天児慧 岩波新書 『中国という世界』竹内実 岩波新書
講義関連事項	

ホームページタイトル	{胡金定.com,http://kokintei.com}
URL	http://www.kokintei.com

授業コード	T1002		
授業科目名	言語と文化Ⅰ ドイツ(前)		
担当者名	藤原三枝子(フジワラ ミエコ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜3限
特記事項	2008年度以降入学生用 履修要項の「国際言語文化科目の概要」を参照。		

講義の内容	ドイツ語圏おもにドイツについて、その戦後の政治や文化、教育理念を成立させてきた精神的バックグラウンドについての理解を深めるとともに、社会的習慣や生活様式など「生活文化」についても学習する。この際、ドイツの人々に共通した考え方や価値観について理解を得させると同時に、そこにも個人差があること、さらにわれわれ日本人の考え方との相違の根底にある人間としての共通性にも気づかせる。「ドイツの教育」をテーマとし、客観的な情報を知識として学ぶと同時に、日本の教育と対比しながら、文化による価値観や発想の差を理解する。
到達目標	ドイツ語圏の教育について、その理念と実際を知ることができる。日本における教育上の問題点を客観的に理解することにより、社会的に責任ある人間を育てるための新しい視点を学ぶことができる。
講義方法	前期は、ドイツの教育を様々な角度から学習する。各回のテーマについて、担当者(個人でも、複数でも可)が発表し、その後教員が解説を行う。多くの資料やビデオを使用する予定である。
準備学習	授業に臨むに当たり、扱うテーマに関して予め少しでも調べておくことが望ましい。また、自分の担当テーマについては、十分な時間をとって調査しておくこと。
成績評価	成績は以下のように総合的に評価する。 授業中の質疑応答25%+発表20%+レポート40%+課題提出15%
講義構成	以下のテーマについて講義する予定である。 前期:ドイツの教育 (以下の各テーマについて、参加者の発表に基づき講義する) 1回ヨーロッパの中のドイツ(欧州連合) 2回ドイツの教育制度概観(日独比較) 3回ドイツの初等教育(事実授業・時間割・教科書比較) 4回ドイツ語を母語としない子どもたち 5回ドイツの中等教育・職業訓練 6回ドイツの大学教育と大学生活 7回同上 8回ゲストスピーカー予定 9回ドイツの若者:兵役と代替勤務 10回ドイツの児童生徒の学力(OECD生徒の学力調査) 11回ドイツの環境教育 12回EUおよびドイツの外国語教育・多言語教育 13回ドイツの祝祭 14回前期のまとめ
教科書	前期:各テーマに即した図書および資料を貸与および提供する。
参考書・資料	前期 ・『最新ドイツ事情を知るための50章』浜本・柳原、明石書店 ・『ドイツの教育』天野、東信堂 ・『日本とドイツ 教育の国際化』天野、玉川大学出版 ・『ドイツの異文化間教育』天野、玉川大学出版 ・『ミュンヘンの小学生』子安、中公新書 ・『ミュンヘンの中学生』子安、朝日文庫 ・『こどもの教育』シュタイナー、筑摩書房 ・『ドイツ流子育てのすすめ』S.ヘフェリン、PHP ・『10人の環境パイオニア』今泉、白水社 ・『こうして森と緑は守られた』川名、三修社

講義関連事項	6号館5階のドイツ語学習指導室でドイツ(語圏)およびドイツ語関連の相談を受けつけています。是非、有効に活用してください。日時は授業内でお知らせします。
担当者から一言	日本の知識獲得中心の教育に対して、生きる力を育む教育の必要が唱えられ、さまざまな教育の改革が行われています。「自立した大人になる」ことを目指すドイツの教育を学び、同時に日本の教育の実際を理解していきます。
ホームページタイトル	{ドイツ Online, http://www.magazine-deutschland.de/jp/ } {国際言語文化科目の概要, http://www.konan-u.ac.jp/center/kokusai/index.htm } {多言語学習コンテンツ, http://kccn.konan-u.ac.jp/ilc/msc/ }
URL	http://www.magazine-deutschland.de/jp/

授業コード	T2002		
授業科目名	言語と文化 I フランス (前)		
担当者名	シツシュ(シツシュ デイディエ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜3限
特記事項	2008年度以降入学生用 履修要項の「国際言語文化科目の概要」を参照。		
オフィスアワー	木曜日 5限 (672研究室) (不在のこともあるので、できれば事前に連絡して下さい)		

講義の内容	フランスの歴史をフランス人の立場から講義し、文化的背景や人々の日常生活の変遷についても詳しく解説する。また、フランス語史にも触れる。
到達目標	フランスを中心として、ヨーロッパの歴史とその背景をさまざまな観点から学ぶことを通して、現在のフランス、ひいてはヨーロッパについての理解を深めることを目指す。
講義方法	各時代のキーワードを挙げ、その特徴について考察する。同時に、写真・スライド・音楽・ビデオなどを使い、各時代の文化に触れてもらった上で、話し合いも行う。 *「学習記録・質問カルテ」の用紙を毎回配り、回収する。
準備学習	授業には指定の教科書を使用するので、講義の前週に通知されるテーマに関して、教科書の内容を予習してきてほしい。
成績評価	授業への積極的関与度(授業中の質問や発言、毎回授業後に記入する「学習記録・質問カルテ」から算出する)25%、個別の口頭発表25%、レポート50%の評価配分で点数をつけ、前期と後期の平均点を最終評価とする。
講義構成	フランスの歴史と文明～起源から現在まで (フランス語史も取り扱う) 第1回 講義の紹介 先史時代 フランスの起源(1):ガリア(紀元前500年頃～50年) 第2回 フランスの起源(2):ローマ属州ガリアからユグ・カペー戴冠(紀元前1世紀～10世紀) 第3回 中世君主制とフランス王国の建設(11世紀～15世紀) 第4回 ルネッサンス期(16世紀) 第5回 古典主義期～絶対王政(17世紀) 第6回 ヨーロッパ啓蒙思想期のフランス(18世紀) 第7回 フランス革命(1789～1799) 第8回 ナポレオン帝国(1800～1815) 第9回 19世紀(1)立憲君主政、第2共和政(1815～1852) 第10回 19世紀(2):第2帝政、第3共和政初頭からドレフェス事件まで(1852～1894) 第11回 第3共和政～継続と危機(1894～1939) 第12回 フランスと第2次世界大戦(1939～1945) 第13回 戦後の危機と第5共和政の施行(1945～1962)

	第14回 第5共和政～1962年から現在まで 総括
教科書	フランスの歴史 HISTOIRE DE FRANCE (D. ROBERT, 大嶋優) 早美出版社 また、必要に応じて、プリントを配布する。
参考書・資料	任意の仏和辞書を用意すること。
講義関連事項	この科目は、国際言語科目の「国際文化コース」を選択した学生の必修科目である。 それ以外の人も、受講することはできるが、卒業に必要な単位としてはカウントされない。
担当者から一言	異文化に関する学習は、自国の文化にフィードバックすることが重要となる。

授業コード	T4003		
授業科目名	言語と文化 II 韓国(後)		
担当者名	金 泰虎(キム テホ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜3限
特記事項	2008年度以降入学生用 履修要項の「国際言語文化科目の概要」を参照。		
オフィスアワー	金曜日 10時40分～12時10分(アポイント必要)		

講義の内容	韓国人の意識や価値観形成に強く影響を与えた儒教の伝来、定着過程、そしてその教えを理解するとともに、社会に根付いている儒教的習慣について学習する。そして、生活の営みの中で、伝統的な意識や価値観が色濃く残っている冠婚葬祭・伝統衣装も取りあげる。
到達目標	韓国の伝統文化に関する具体性を掴み、正確な韓国文化の理解に結びつけることを目指す。
講義方法	韓国社会の思想とも言える儒教、その伝来と定着、その教え、そしてその思想を反映している伝統文化(冠婚葬祭・伝統衣装)を取りあげて、日本語で分かりやすく講義する。必要に応じて、画像・映像(DVD・ビデオ)を用いて授業を行う。学習者にはテーマに沿って発表も行ってもらい、積極的に授業に取り組むように指導する。
準備学習	講義構成に基づいて、事前に講義内容を調べて予習すること。
成績評価	定期試験は実施せず、講義時の対応(40%)、発表(30%)、課題(30%)をもって評価する。
講義構成	<後期> 回数 授業内容 第1～2回 儒教(仁・義) 第3～4回 儒教(礼・智) 第5～6回 両班 第7～8回 族譜 第9～10回 冠婚葬祭(1) 第11～12回 冠婚葬祭(2) 第13～14回 伝統衣装、まとめ
教科書	なし。毎回、講義資料を配布する。
参考書・資料	『日本朱子学と朝鮮』(東京大学出版会) 『儒教とは何か』(中公新書) 『朝鮮儒教二千年』(朝日新聞社) 『儒教史』(山川出版社) 『両班』(中公新書)
講義関連事項	サポート室に備えている韓国伝統文化に関する映像を觀賞することを勧める。

担当者から一言	<p>儒教的価値観を規範にして生きている韓国人の意識の形成や伝統文化に関して勉強することは、韓国について学べるだけではなく、異文化理解においても、とても有益な学習になると思います。。</p> <p>以下の情報も参考にして下さい。</p> <p>①学習相談アワー 毎週水曜日、12時20分から12時50分まで、韓国語指導室(6号館653号室)で、専任教員が皆さんの相談に応じています。どのような相談でも結構です。ぜひ、訪ねてみて下さい。</p> <p>②韓国語チューター制度 前期10回・後期10回(月曜日15:00～17:00、金曜日12:00～14:00)にわたって、チューターが韓国語指導室(6号館653号室)で、皆さんの質問に応じています。</p>
---------	---

	<p>③韓国語合宿 毎年、韓国語受講生を対象に平生記念館(御影)で2泊3日の合宿(開催時期は毎年異なる)を行っていますので、奮って参加して下さい。韓国語や韓国文化の勉強はもとより、皆さんが交流を深める良い機会になると思います。</p> <p>④語学優秀賞制度 一定の科目を受講すれば、受賞できます。詳しくは、ゼフィールを参考にするか、あるいは国際言語文化センター、もしくは専任教員にまで尋ねて下さい。</p> <p>⑤韓国語検定試験 甲南大学は2つの検定試験(「ハングル能力検定試験」・「世界韓国語認証試験(KLPT)」)の試験会場になっています。自分の実力を確認するためにも、ぜひ受けてみて下さい。</p> <p>⑥夏期講座 毎年、夏休みの間の4週間、韓国(ソウル)の漢陽大学校で語学研修を実施しています。</p> <p>⑦長期留学 甲南大学と漢陽大学校は協定を結んでおり、毎年、1年間の長期留學生を交換しています。留学先の韓国では学費を払う必要はなく、無料で寮が提供されます。</p> <p>⑧秋の踏査 毎年11月中旬(日曜日)、韓国語受講生を対象に日韓交流ゆかりの場所を訪ねる日帰りの踏査を行っています。</p>
--	---

授業コード	T3003		
授業科目名	言語と文化Ⅱ 中国(後)		
担当者名	胡 金定(コ キンテイ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜3限
特記事項	2008年度以降入学生用 履修要項の「国際言語文化科目の概要」を参照。		
オフィスアワー	金曜日昼(12:15~12:55)		

講義の内容	中国政府の公式サイト「中華人民共和国人民政府」のホームページを使って、中国の国家制度、自然地理、歴史、外交、経済、科学技術、環境問題、体育、教育、医療、農業などを取り上げ、講義を行います。
到達目標	中国文化は日本文化に大きく影響を与えた。同じ漢字文化圏ではあるが、両国の社会制度や生活習慣がかなり異なる。本講義は日本文化と中国文化の共通点と相違点に着目して、衣、食、住、風俗習慣、人情、家庭、教育、思考方式、価値観など幅広い分野を取り上げ、中国文化を学習していくと同時に相互理解を深めていくことを到達目標とする。
講義方法	具体的なテーマを設定して、講義をしたあと、学生諸君に中国語で自分の意見を発表したり、ディスカッションをしたりすることを通して中国文化の基礎的な知識と語学の習得が一度に出来るように工夫していく。学生諸君には、中国文化や社会を楽しみながら学習してもらおうと同時に、自分自身の語学の力を一層高めてもらう。
準備学習	前回の講義内容を復習し、後期の講義内容の予習をしておくこと。
成績評価	出席状況、授業中の発表、小テストを40%にし、前期・後期の期末試験を60%にする。
講義構成	後期: 後期は中国政府の公式サイト「中華人民共和国人民政府」のホームページを使って、講義を行います。 1回. 中国の国家制度 2回. 中国の自然地理 3回. 中国の歴史概況 4回. 中国の人口、民族と生活習慣 5回. 中国の宗教 6回. 中国の外交 7回. 中国の経済 8回. 中国の科学技術 9回. 中国の環境問題 10回. 中国の教育 11回. 中国の文化芸術 12回. 中国の医療 13回. 中国の体育 14回. 中国の台湾問題 15回. 前期試験

教科書	後期: プリント配布。中国政府の公式サイトを使って、講義を進めていく予定です。
参考書・資料	後 期:参考書 書 名:『手にとるように中国のことがわかる本』 著 者:アジア太平洋政策研究会議 編著 出版社:かんき出版 定 価:1400円+税
講義関連事項	CALL教室で授業をしますので、インターネットを使って中国の生の情報を見ながら講義を行う予定です。
担当者から一言	コキンちゃん(胡金定の愛称)と楽しく中国文化の真髄を学んでいきましょう。
その他	楽しく、身につく授業の雰囲気を出していきたいです。ぜひご期待してください。
ホームページタイトル	{胡金定.com,http://kokintei.com}
URL	http://www.kokintei.com

授業コード	T1003		
授業科目名	言語と文化 II ドイツ(後)		
担当者名	柳原初樹(ヤナギハラ ハツキ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜3限
特記事項	2008年度以降入学生用 履修要項の「国際言語文化科目の概要」を参照。		
オフィスアワー	水曜日昼休み		

講義の内容	ドイツ語圏おもにドイツについて、その戦後の政治や文化、教育理念を成立させてきた精神的バックグラウンドについての理解を深めるとともに、社会的習慣や生活様式など「生活文化」についても学習する。この際、ドイツの人々に共通した考え方や価値観について理解を得させると同時に、そこにも個人差があること、さらにわれわれ日本人の考え方の相違の根底にある人間としての共通性にも気づかせる。「ドイツの戦後責任」を中心テーマに、客観的な情報を知識として学ぶと同時に、日本の教育と対比しながら、文化による価値観や発想の差を理解する。
到達目標	ドイツの政治文化、教育理念、社会規範などに関して、直接の資料や映像、ゲストスピーカー、文学などに触れることによって、正確でアクチュアルな理解を目指す。 同時に、政治や教育、社会規範の根底にある価値観が、どのような歴史的・文化的背景から生まれて来たのか、またどのような規範をドイツ人は今後も守って行こうとしているのかについて考えることが重要である。 それは再帰的に、日本人として 「我々は何者で、どこから来て、どこへ行こうとしているのか」という問いに対して対峙することにもつながるからである。
講義方法	後期は1985年5月8日の敗戦40周年に行われたヴァイツゼッカー元大統領の演説を基に、ナチスの犯罪の実態、ドイツの戦後責任、戦後のドイツ外交、歴史教育、キリスト教会の罪責告白について参加者の発表形式で行う。後期は、授業は原則参加者の発表+討論形式で行うが、テーマによってはビデオや実物教材、統計資料などを活用し、グループでの作業も行う予定である。
準備学習	授業に臨むに当たり、扱うテーマに関して予め少しでも調べておくことが望ましい。また、自分の担当テーマについては、十分な時間をとって調査し、パワーポイント資料を作成しておくこと。
成績評価	成績は講義への出席状況や発表などを総合的に評価する。 (授業中の質疑応答25%+発表20%+レポート40%+課題提出15%)
講義構成	後期:戦後ドイツの和解と謝罪への取り組み(担当:柳原初樹)

	<p>1回 ヴァイツゼッカー元大統領の演説の骨子、VIDEO (柳原)</p> <p>2回 ヴァイツゼッカー元大統領の演説の骨子、VIDEO (柳原+参加者)</p> <p>3回 ヴァイツゼッカー元大統領の演説の骨子、VIDEO (柳原+参加者)</p> <p>4回 ナチズムとその犯罪(参加者)</p> <p>5回 アメリカや連合国はナチスをどのように見ていたか。戦後の対ドイツ占領政策(柳原+参加者)</p> <p>6回 ドイツ人における罪責の問題 カール・ヤスパース『戦争の罪を問う』参加者</p> <p>7回 ニュルンベルク裁判(参加者)、東京裁判、国際刑事裁判所(参加者)</p> <p>8回 50年代、60年代におけるナチスの過去に関する沈黙、記憶からの追放願望(柳原)</p> <p>9回 戦後ドイツの過去との取り組み、アウシュビッツ裁判、ナチス犯罪の時効廃止、68年世代による追求</p> <p>10回 国際歴史教科書対話と歴史教育 柳原</p> <p>11回 国際歴史教科書対話と歴史教育(参加者)80年代の歴史家論争以降(柳原)</p> <p>12回 日本の「新しい歴史教科書をつくる会」、靖国問題(参加者) 戦争の過去と文学 フランクルの『夜と霧』(参加者)、ベルンハルト・シュリンク『朗読者』</p> <p>13回 映画を見る</p> <p>14回 ドイツの反ナチス抵抗運動『白バラ運動』(参加者)、 キリスト教教会の罪責告白 ドイツ全土にある、過去を警鐘し、犠牲者を追悼するモニュメントの存在</p>
教科書	<p>岩波ブックレットNo.76『荒野の40年』リヒャルト・フォン・ヴァイツゼッカー</p> <p>義務購入ではないが、『歴史教育と教科書』岩波ブックレットNo.545、近藤孝弘著 440円も強く推奨する。その他の図書は貸与する。適宜、プリント教材を配布する予定。</p>
参考書・資料	<p>是非読んで欲しい本</p> <p>1)『夜と霧』V.E.フランクル みすず書房</p> <p>2)『白バラは散らず』インゲ・ショル</p> <p>3)DVD『白バラの祈り』(約2時間)が6号館3階のマルチメディア自習室にあります。是非、自習室で見てください。</p> <p>ナチスについて</p> <p>『ナチス第三帝国を知るための101の質問』ヴォルフガング・ベンツ 現代書館</p> <p>》罪責の問題《</p> <p>カール・ヤスパース:『戦争の罪を問う』橋本文夫訳 平凡社ライブラリー1998年 『21世紀の子どもたちにアウシュビッツをいかに教えるか?』ジャン・F・フォルシュ 作品社2000年</p> <p>》歴史論争、歴史解釈、歴史教科書関係《</p> <p>臼井吉美監修『戦後文学論争』上下巻 番町書房1972年 『ドイツ人の歴史意識』藤沢法映 亜紀書房1986年 J.ハーバーマス/E.ノルテ他著 『過ぎ去ろうとしない過去-ナチズムとドイツ歴史家論争 三島憲一他訳 人文書院 1995年 小森陽一/高橋哲哉編 『ナショナル・ヒストリーを超えて』 東京大学出版会1998年 『国際歴史教科書対話』近藤孝弘 中公新書1998年 高橋哲哉『戦後責任論』 講談社 1999年 岡本智周 『国民史の変貌』日本評論社 2001年</p> <p>》戦争を題材とした文学《</p> <p>大岡昇平『レイテ戦記』中央公論社1972年(同年再版のものを参照) 吉田満『鎮魂戦艦大和』講談社 初版1974年、本稿では1985年の第14刷を参照) ハインリッヒ・ベル『アダムよ、お前はどこにいた』、『汽車は遅れなかった』 ギュンター・グラス『ブリキの太鼓』 ベルンハルト・シュリンク『朗読者』</p> <p>》国際軍事裁判、戦後補償、法的問題《</p> <p>『憲法と戦後責任—戦後50年・日本とドイツ—』法律時報 1995年5号11頁 『法と民主主義』日本民主法律家協会1995 No.300 6頁 『東京裁判ハンドブック』青木書店 1989年第一刷(1999年第三冊を参照) 『東京裁判から戦後責任の思想へ』 大沼保昭 『ニュルンベルク裁判:ナチス戦犯はいかにして裁かれたか』/ ウェルナー・マーザー著;西義之訳 ティビーエ</p>

	<p>ス・ブリタニカ, 1979.8 『東京裁判を問う』細谷、安藤、大沼編 講談社学術文庫 『国際刑事裁判所の理念』安藤泰子著 成文堂 『ナチス裁判』野村二郎著 講談社 『ドイツ法入門』村上淳一 有為閣 1988年</p> <p>》日本論・ドイツ論《</p> <p>H.H.ブリュッヒャー 『テーオドア・ホイスにみるドイツ民主主義の源流』太陽出版1990年 カレル・ヴァン・ウォルフレン 『なぜ日本人は日本を愛せないのか』毎日新聞 1998年3月第1刷(同年4月第3刷を参照) 吉田裕 『日本人の戦争観 戦後史のなかの変容』岩波書店 1995年 第一刷(第8冊2000年を参照) 『日本の失敗』松本健一 東洋経済新報社 1998年 『敗北を抱きしめて』上下 ジョン・ダワー 岩波2004年 山口知三『廃墟をさまよう人々』人文書院 1996年 リヒャルト・フォン・ヴァイツゼッカー:『ヴァイツゼッカー回想録』永井清彦訳 岩波1998年 『現代ドイツ—統一後の知的軌跡』三島 憲一 『日本とドイツ 二つの戦後思想』仲正 昌樹 『日本とドイツ 二つの全体主義 「戦前思想」を書く』仲正 昌樹 『白バラの声 ショル兄妹の手紙』ハンス・ショル(著), ソフィー・ショル(著) 『白バラを生きる—ナチに抗った七人の生涯』M.C.シュナイダー(著),</p> <p>》演説《</p> <p>岩波ブックレット『荒野の40年』リヒャルト・フォン・ヴァイツゼッカー 『心に刻む歴史ドイツと日本の戦後50年—ヴァイツゼッカー前独大統領講演詳録』 東京ブックレット 1995年 東京新聞社</p> <p>日独の歴史認識、戦後責任については、下記参照 『言語と文化』甲南大学国際言語文化センター紀要7, 8, 9号掲載の柳原初樹の論文</p>
講義関連事項	<p>可能であれば、ドイツ文化について広範囲に触れることの出来る、「中級ドイツ語Ⅳ」も平行してとることが望ましい。</p> <p>DVD『白バラの祈り』6号館3階のマルチメディア自習室にあります。是非、自習室で見てください。</p>

担当者から一言	<p>多元化社会においては「自国民」中心の国民史は解体しつつあります。歴史教育における新しいパラダイムは他者の視点を抜きには自国の歴史をも把握できないことを認識するようになってきました。 ドイツの戦後60年の戦争責任、戦後責任の歩みと振幅を考えながら、アジアにおける「歴史の共有」の可能性を考えていきたいと思います。(後期 柳原)</p>
その他	
ホームページタイトル	<p>{ドイツOnline, http://www.magazine-deutschland.de/jp/} {国際言語文化科目の概要,http://www.konan-u.ac.jp/center/kokusai/index.htm} {多言語学習コンテンツ,http://kccn.konan-u.ac.jp/ilc/msc/}</p>
URL	http://www.magazine-deutschland.de/jp/

授業コード	T2003		
授業科目名	言語と文化 II フランス(後)		
担当者名	中村典子(ナカムラ ノリコ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜3限
特記事項	2008年度以降入学生用 履修要項の「国際言語文化科目の概要」を参照。		
オフィスアワー	木曜日15:00~16:30に研究室(673)へ来て下さい。 ただし、会議等で留守にすることも稀にあるので、できれば事前にメール等で連絡して下さい。		

講義の内容	フランスの教育制度をはじめとして、いろいろな社会制度について基本的な理念をおさえる。また、最新のニュース映像や資料を活用して、フランス人のメンタリティーや価値観を探る。
到達目標	フランスのさまざまな社会制度(主として、教育・結婚・労働に関する制度)について学び、ヨーロッパ型の福祉社会について考えると同時に、フランスの大学入試(バカロレア)で課される小論文dissertationの書き方、論理的思考方法を習得する。
講義方法	授業は原則として講義形式であるが、「映像や資料から何が読み取れるか」「日本と異なる点はどこか」「日本人が学ぶべき点は何か」等を考えてもらい、毎回、最後の15分で意見交換し、クラス全体で議論を行う。 *「学習記録・質問カルテ」の用紙を毎回配り、回収する。
準備学習	各回で扱うテーマについて、インターネット等を利用して、特に知りたいこと、疑問に思うことなどをメモってきて、授業の最後の15分の意見交換、ディスカッションの際に活用してほしい。 また、配布されたプリントは、次回までにすべて目を通してきてほしい。
成績評価	授業への積極的関与度(授業中の質問や発言、毎回授業後に記入する「学習記録・質問カルテ」から算出する)25%、個別の口頭発表25%、レポート50%の配分で評価する。
講義構成	第1回 序論：フランス人の働き方と個人主義 第2回 フランスの教育制度、アメリカの教育制度 第3回 バカロレア(大学入学資格試験)、フランスの大学と学生生活 第4回 フランス式の小論文の書き方(1) 第5回 フランス式の小論文の書き方(2) 第6回 フランス式の小論文の書き方(3) 第7回 フランスの結婚制度とPACS、家族制度 第8回 労働をめぐる問題、フランスでの「客の扱い方」 第9回 日仏比較「人生において大切にしていること」 第10回 フランスの食文化、個別発表 第11回 社会における弱者への対応、個別発表 第12回 フランスの国籍要件「生地主義」、個別発表 第13回 EUの中のフランス、個別発表 第14回 総括：フランス社会から私たちが学べること
教科書	講義に関連する資料、個別発表・レポートに役立つ資料などをプリントで配布する。
講義関連事項	この科目は、国際言語科目の「国際文化コース」を選択した学生の必修科目である。 それ以外の人も、受講することはできるが、卒業に必要な単位としてはカウントされない。
担当者から一言	フランスの大学入試(バカロレア)で課される小論文dissertationの書き方を解説し、実際に、受講者に2回、書いてもらう。具体的には、個別の口頭発表の際に細かく指導し、最終レポートでも実践してもらう。レポートの書き方、卒論の書き方などで悩んでいる人は、ぜひ受講をお勧めする。

授業コード	T4001		
授業科目名	言語と文化 韓国		
担当者名	金 泰虎(キム テホ)		
配当年次	1・2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(金曜3限)、後期(金曜3限)
特記事項	2007年度以前入学生用 履修要項の「国際言語文化科目の概要」を参照。		
オフィスアワー	金曜日 10時40分～12時10分(アポイント必要)		

講義の内容	韓国語の歴史や言語の特徴、前近代における日韓交流とその狭間で言語を媒介にして活動した通事(通訳官)に着目して学習する。なお、韓国人の意識や価値観形成に強く影響を与えた儒教、そして伝統文化(冠婚葬祭・伝統衣装)を取り上げて、隣国理解まで繋げる。
到達目標	韓国語と朝鮮語という用語の違い、韓国語の変遷、前近代の日韓交流における通訳官の活動について把握できることを目指す。なお、韓国の伝統文化に関する具体性を掴み、正確な韓国文化の理解に結びつけることを目標とする。
講義方法	前期は、韓国語を育んだ自然環境、言語の歴史や特徴、日韓交流と通事、後期には、韓国の儒教思想、伝統

	文化を取り上げて、日本語で分かりやすく講義する。必要に応じて、画像・映像(DVD・ビデオ)を用いて授業を行う。学習者には一目に沿って発表も行ってもらい、積極的に授業に取り組むように指導する。
準備学習	講義構成に基づいて、事前に講義内容を調べて予習すること。
成績評価	定期試験は実施せず、講義時の対応(40%)、発表(30%)、課題(30%)をもって評価する。
講義構成	(前期) 第1～2回 導入、韓国語と朝鮮語 第3～4回 韓国語使用圏 第5～6回 韓国語の歴史 第7～8回 朝鮮通信使(1) 第9～10回 朝鮮通信使(2) 第11～12回 前近代における日韓の通事 第13～14回 倭館と雨森芳州 (後期) 第1～2回 儒教(仁・義) 第3～4回 儒教(礼・智) 第5～6回 両班 第7～8回 族譜 第9～10回 冠婚葬祭(1) 第11～12回 冠婚葬祭(2) 第13～14回 伝統衣装、まとめ
教科書	なし。毎回、講義資料を配布する。
参考書・資料	『韓国語教育の理論と実際』(白帝社) 『朝鮮の歴史と文化』(明石書店) 『ハンゲルの成立と歴史』(大修館書店) 『日朝交流史』(有斐閣) 『朝鮮通信使の研究』(思文閣) 『雨森芳州』(中公新書) 『倭館』(文春新書) 『両班』(中公新書) 『日本朱子学と朝鮮』(東京大学出版会) 『儒教とは何か』(中公新書) 『朝鮮儒教二千年』(朝日新聞社) 『儒教史』(山川出版社)
講義関連事項	江戸時代において朝鮮通信使が立ち寄ったゆかりの場所を訪ねたり、サポート室に備えている韓国伝統文化に関する映像を観賞することを勧める。
担当者から一言	韓国語の学習だけではなく、韓国語の変遷過程や韓国の伝統文化についても詳しく勉強してみませんか。以下の情報も参考にして下さい。 ①学習相談アワー 毎週水曜日、12時20分から12時50分まで、韓国語指導室(6号館653号室)で、専任教員が皆さんの相談に応じています。どのような相談でも結構です。ぜひ、訪ねてみて下さい。 ②韓国語チューター制度 前期10回・後期10回(月曜日15:00～17:00、金曜日12:00～14:00)にわたって、チューターが韓国語指導室(6号館653号室)で、皆さんの質問に応じています。 ③韓国語合宿 毎年、韓国語受講生を対象に平生記念館(御影)で2泊3日の合宿(開催時期は毎年異なる)を行っていますので、奮って参加して下さい。韓国語や韓国文化の勉強はもとより、皆さんが交流を深める良い機会になると思います。 ④語学優秀賞制度 一定の科目を受講すれば、受賞できます。詳しくは、ゼフィールを参考にするか、あるいは国際言語文化センター、もしくは専任教員にまで尋ねて下さい。 ⑤韓国語検定試験 甲南大学は2つの検定試験(「ハンゲル能力検定試験」・「世界韓国語認証試験(KLPT)」)の試験会場になっています。自分の実力を確認するためにも、ぜひ受けてみて下さい。 ⑥夏期講座 毎年、夏休みの間(8月)の約4週間、韓国(ソウル)の漢陽大学校で語学研修を実施しています。 ⑦長期留学 甲南大学と漢陽大学校は協定を結んでおり、毎年、1年間の長期留学生を交換しています。留学先の韓国では学費を払う必要はなく、無料で寮が提供されます。 ⑧秋の踏査 毎年11月中旬(日曜日)、韓国語受講生を対象に日韓交流ゆかりの場所を訪ねる日帰りの踏査を行って

	ます。
--	-----

授業コード	T3001		
授業科目名	言語と文化 中国		
担当者名	胡 金定(コ キンテイ)、石井康一(イシイ コウイチ)		
配当年次	1・2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(金曜3限)、後期(金曜3限)
特記事項	2007年度以前入学生用 履修要項の「国際言語文化科目の概要」を参照。		
オフィスアワー	胡金定:金曜日昼(12:15~12:55) 石井:月曜3限、金曜2限		

講義の内容	<p>【前期】中国の映画・演劇・テレビドラマ・流行歌を通して、その歴史と文化を学びます。具体例に即して異文化としての特質を捉え、自分自身の中国文化論を組み立てていってもらいます。</p> <p>【後期】中国政府の公式サイト「中華人民共和国人民政府」のホームページを使って、中国の国家制度、自然地理、歴史、外交、経済、科学技術、環境問題、体育、教育、医療、農業などを取り上げ、講義を行います。</p>
到達目標	<p>中国文化は日本文化に大きく影響を与えた。同じ漢字文化圏ではあるが、両国の社会制度や生活習慣がかなり異なる。本講義は日本文化と中国文化の共通点と相違点に着目して、衣、食、住、風俗習慣、人情、家庭、教育、思考方式、価値観など幅広い分野を取り上げ、中国文化を学習していくと同時に相互理解を深めていくことを到達目標とする。</p>
講義方法	<p>具体的なテーマを設定して、講義をしたあと、学生諸君に中国語で自分の意見を発表したり、ディスカッションをしたりすることを通して中国文化の基礎的な知識と語学の習得が一度に出来るように工夫していく。学生諸君には、中国文化や社会を楽しみながら学習してもらおうと同時に、自分自身の語学の力を一層高めてもらう。</p>
準備学習	<p>前回の講義内容を復習して、次回の講義内容の予習をしておくこと。</p>
成績評価	<p>出席状況、授業中の発表、小テストを40%にし、前期・後期の期末試験を60%とする。</p>
講義構成	<p>前期担当:石井康一 「映画・演劇・テレビドラマ・流行歌を通してみる中国の歴史と文化」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 導論:中国の歴史と文化とは 2. 「我的兄弟姐妹(再見 また逢う日まで)」:中国人の家族観 3. 「北京好日(楽しみ探して)」:同時代を生きる人々 4. 社会主義映画の流れと「生きる」(上) 5. 社会主義映画の流れと「生きる」(下) 6. 中国映画の新しい流れと「黄色い大地」 7. 改革開放時代の幕開けと「逆光」 8. 話劇「茶館」と20世紀中国の歴史(上) 9. 話劇「茶館」と20世紀中国の歴史(下) 10. 伝統と近代化と「心の香り」 11. 連続テレビドラマ「一年又一年」「環球格格」 12. 中国独自のアニメ映画の世界 13. 短編映像を通してを知る中国の歴史と文化 14. 流行歌にうつついだされる中国の歴史と文化 15. 前期試験 <p>後期担当:胡金定 後期は中国政府の公式サイト「中華人民共和国人民政府」のホームページを使って、講義を行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1回. 中国の国家制度 2回. 中国の自然地理 3回. 中国の歴史概況 4回. 中国の人口、民族と生活習慣 5回. 中国の宗教 6回. 中国の外交 7回. 中国の経済 8回. 中国の科学技術 9回. 中国の環境問題 10回. 中国の教育 11回. 中国の文化芸術

	12回. 中国の医療 13回. 中国の体育 14回. 中国の台湾問題 15回. 後期試験
教科書	前期:プリントを配布します。 後期:プリント配布。中国政府の公式サイトを使って、講義を進めていく予定です。
参考書・資料	前期の参考書 『中華人民共和国史』 天児慧 岩波新書 『中国という世界』 竹内実 岩波新書 後期の参考書 書名:『手にとるように中国のことがわかる本』 著者:アジア太平洋政策研究会議 編著 出版社:かんき出版 定価:1400円+税
講義関連事項	CALL教室で授業をしますので、インターネットを使って中国の生の情報を見ながら講義を行う予定です。
担当者から一言	コキンちゃん(胡金定の愛称)と楽しく中国文化の真髄を学んでいきましょう。
その他	楽しく、身につく授業の雰囲気を出していきたいです。ぜひご期待してください。
ホームページタイトル	{胡金定.com,http://kokintei.com}
URL	http://www.kokintei.com

授業コード	T1001		
授業科目名	言語と文化 ドイツ		
担当者名	柳原初樹(ヤナギハラ ハツキ)、藤原三枝子(フジワラ ミエコ)		
配当年次	1・2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(金曜3限)、後期(金曜3限)
特記事項	2007年度以前入学生用 履修要項の「国際言語文化科目の概要」を参照。		
オフィスアワー	藤原 前期:金2時間目(アポイントをとってください。) 柳原:水曜日昼休み		

講義の内容	ドイツ語圏おもにドイツについて、その戦後の政治や文化、教育理念を成立させてきた精神的バックグラウンドについての理解を深めるとともに、社会的習慣や生活様式など「生活文化」についても学習する。この際、ドイツの人々に共通した考え方や価値観について理解を得させると同時に、そこにも個人差があること、さらにわれわれ日本人の考え方との相違の根底にある人間としての共通性にも気づかせる。前期は「ドイツの教育」をテーマとし、後期は「ドイツの戦後責任」を中心テーマに、客観的な情報を知識として学ぶと同時に、日本の教育と対比しながら、文化による価値観や発想の差を理解する。
到達目標	ドイツの政治文化、教育理念、社会規範などに関して、直接の資料や映像、ゲストスピーカー、文学などに触れることによって、正確でアクチュアルな理解を目指す。 同時に、政治や教育、社会規範の根底にある価値観が、どのような歴史的・文化的背景から生まれて来たのか、またどのような規範をドイツ人は今後も守って行こうとしているのかについて考えることが重要である。 それは再帰的に、日本人として 「我々は何者で、どこから来て、どこへ行こうとしているのか」という問いに対して対峙することにもつながるからである。
講義方法	前期は、ドイツの教育を様々な角度から学習する。各回のテーマについて、担当者(個人でも、複数でも可)が発表し、その後教員が解説を行う。多くの資料やビデオを使用する予定である。 後期は1985年5月8日の敗戦40周年に行われたヴァイツゼッカー元大統領の演説を基に、ナチスの犯罪の実態、ドイツの戦後責任、戦後のドイツ外交、歴史教育、キリスト教会の罪責告白について参加者の発表形式で行

	う。後期は、授業は原則参加者の発表＋討論形式で行うが、テーマによってはビデオや実物教材、統計資料などを活用し、グループでの作業も行う予定である。
準備学習	授業に臨むに当たり、扱うテーマに関して予め調べておくことが望ましい。また、自分の担当テーマについては、十分な時間をとって調査しておくこと。
成績評価	成績は講義への出席状況や発表などを総合的に評価する。 (授業中の質疑応答25%+発表20%+レポート40%+課題提出15%) 最終評価は、前期と後期の評価を合わせて決定する。
講義構成	以下のテーマについて講義する予定である。 前期:ドイツの教育(担当:藤原三枝子) (以下の各テーマについて、参加者の発表に基づき講義する) 1回ヨーロッパの中のドイツ(欧州連合) 2回ドイツの教育制度概観(日独比較) 3回ドイツの初等教育(事実授業・時間割・教科書比較) 4回ドイツ語を母語としない子どもたち 5回ドイツの中等教育・職業訓練 6回ドイツの大学教育と大学生活 7回同上 8回ゲストスピーカー予定 9回ドイツの若者:兵役と代替勤務 10回ドイツの児童生徒の学力(OECD生徒の学力調査) 11回ドイツの環境教育 12回EUおよびドイツの外国語教育・多言語教育 13回ドイツの祝祭 14回前期のまとめ 後期:戦後ドイツの和解と謝罪への取り組み(担当:柳原初樹) 1回 ヴァイツゼッカー元大統領の演説の骨子、VIDEO(柳原) 2回 ヴァイツゼッカー元大統領の演説の骨子、VIDEO(柳原+参加者) 3回 ヴァイツゼッカー元大統領の演説の骨子、VIDEO(柳原+参加者) 4回 ナチズムとその犯罪(参加者) 5回 アメリカや連合国はナチスをどのように見ていたか。戦後の対ドイツ占領政策(柳原+参加者) 6回 ドイツ人における罪責の問題 カール・ヤスパース『戦争の罪を問う』参加者 7回 ニュルンベルク裁判(参加者)、東京裁判、国際刑事裁判所(参加者) 8回 50年代、60年代におけるナチスの過去に関する沈黙、記憶からの追放願望(柳原) 9回 戦後ドイツの過去との取り組み、アウシュビッツ裁判、ナチス犯罪の時効廃止、68年世代による追求 10回 国際歴史教科書対話と歴史教育 柳原 11回 国際歴史教科書対話と歴史教育(参加者)80年代の歴史家論争以降(柳原) 12回 日本の「新しい歴史教科書をつくる会」、靖国問題(参加者) 戦争の過去と文学 フランクルの『夜と霧』(参加者)、ベルンハルト・シュリンク『朗読者』 13回 映画を見る 14回 ドイツの反ナチス抵抗運動『白バラ運動』(参加者)、 キリスト教教会の罪責告白 ドイツ全土にある、過去を警鐘し、犠牲者を追悼するモニュメントの存在
教科書	前期:各テーマに即した図書および資料を貸与および提供する。 後期:岩波ブックレットNo.55『荒野の40年』 義務購入ではないが、『歴史教育と教科書』岩波ブックレットNo.545、近藤孝弘著 440円も強く推奨する。その他の図書は貸与する。適宜、プリント教材を配布する予定。
参考書・資料	前期 ・『最新ドイツ事情を知るための50章』浜本・柳原、明石書店 ・『ドイツの教育』天野、東信堂 ・『日本とドイツ 教育の国際化』天野、玉川大学出版

- ・『ドイツの異文化間教育』天野、玉川大学出版
- ・『ミュンヘンの小学生』子安、中公新書
- ・『ミュンヘンの中学生』子安、朝日文庫
- ・『こどもの教育』シュタイナー、筑摩書房
- ・『ドイツ流子育てのすすめ』S.ヘフェリン、PHP
- ・『10人の環境パイオニア』今泉、白水社
- ・『こうして森と緑は守られた』川名、三修社

後期

是非読んで欲しい本

- 1)『夜と霧』V.E・フランクル みすず書房
- 2)『白バラは散らず』インゲ・ショル
- 3)DVD『白バラの祈り』(約2時間)が6号館3階のマルチメディア自習室にあります。是非、自習室で見てください。

ナチスについて

『ナチス第三帝国を知るための101の質問』ヴォルフガング・ベンツ 現代書館

》罪責の問題《

カール・ヤスパース:『戦争の罪を問う』橋本文夫訳 平凡社ライブラリー1998年
『21世紀の子どもたちにアウシュビッツをいかに教えるか?』ジャン・F・フォルシュ 作品社2000年

》歴史論争、歴史解釈、歴史教科書関係《

臼井吉美監修『戦後文学論争』上下巻 番町書房1972年
『ドイツ人の歴史意識』藤沢法暎 亜紀書房1986年
J.ハーバーマス/E・ノルテ他著 『過ぎ去ろうとしない過去—ナチズムとドイツ歴史家論争 三島憲一他訳 人文書院 1995年
小森陽一/高橋哲哉編 『ナショナル・ヒストリーを超えて』 東京大学出版会1998年
『国際歴史教科書対話』近藤孝弘 中公新書1998年
高橋哲哉『戦後責任論』 講談社 1999年
岡本智周 『国民史の変貌』日本評論社 2001年

》戦争を題材とした文学《

大岡昇平『レイテ戦記』中央公論社1972年(同年再版のものを参照)
吉田満『鎮魂戦艦大和』講談社 初版1974年、本稿では1985年の第14刷を参照)
ハインリッヒ・ベル『アダムよ、お前はどこにいた』、『汽車は遅れなかった』
ギュンター・グラス『ブリキの太鼓』
ベルンハルト・シュリンク『朗読者』

》国際軍事裁判、戦後補償、法的問題《

『憲法と戦後責任—戦後50年・日本とドイツ—』法律時報 1995年5号11頁
『法と民主主義』日本民主法律家協会1995 No.300 6頁
『東京裁判ハンドブック』青木書店 1989年第一刷(1999年第三冊を参照)
『東京裁判から戦後責任の思想へ』 大沼保昭
『ニュルンベルク裁判: ナチス戦犯はいかにして裁かれたか』/ ウェルナー・マーザー著; 西義之訳 ティビーエス・ブリタニカ, 1979.8
『東京裁判を問う』細谷、安藤、大沼編 講談社学術文庫
『国際刑事裁判所の理念』安藤泰子著 成文堂
『ナチス裁判』野村二郎著 講談社
『ドイツ法入門』村上淳一 有為閣 1988年

》日本論・ドイツ論《

H.H.ブリュッヒャー 『テーオドア・ホイスにみるドイツ民主主義の源流』太陽出版1990年
カレル・ヴァン・ウォルフレン 『なぜ日本人は日本を愛せないのか?』毎日新聞 1998年3月第1刷(同年4月第3刷を参照)
吉田裕 『日本人の戦争観 戦後史のなかの変容』岩波書店 1995年 第一刷(第8冊2000年を参照)

	<p>『日本の失敗』松本健一 東洋経済新報社 1998年 『敗北を抱きしめて』上下 ジョン・ダワー 岩波2004年 山口知三『廃墟をさまよう人々』人文書院 1996年 リヒャルト・フォン・ヴァイツゼッカー:『ヴァイツゼッカー回想録』永井清彦訳 岩波1998年 『現代ドイツ—統一後の知的軌跡』三島 憲一 『日本とドイツ 二つの戦後思想』仲正 昌樹 『日本とドイツ 二つの全体主義「戦前思想」を書く』仲正 昌樹 『白バラの声 ショル兄妹の手紙』ハンス・ショル(著), ソフィー・ショル(著) 『白バラを生きる—ナチに抗った七人の生涯』M.C.シュナイダー(著),</p> <p>》演説《</p> <p>岩波ブックレット『荒野の40年』リヒャルト・フォン・ヴァイツゼッカー 『心に刻む歴史ドイツと日本の戦後50年—ヴァイツゼッカー前独大統領講演詳録』 東京ブックレット 1995年 東京新聞社</p> <p>日独の歴史認識、戦後責任については、下記参照 『言語と文化』甲南大学国際言語文化センター紀要7, 8, 9号掲載の柳原初樹の論文</p>
講義関連事項	毎週、水曜日のお昼休みに6号館5階のドイツ語学習指導室でドイツ(語圏)およびドイツ語関連の相談を受けています。是非、有効に活用してください。

担当者から一言	<p>日本の知識獲得中心の教育に対して、生きる力を育む教育の必要が唱えられ、さまざまな教育の改革が行われています。「自立した大人になる」ことを目指すドイツの教育を学び、同時に日本の教育の実際を理解していきます。(前期:藤原)</p> <p>多元化社会においては「自国民」中心の国民史は解体しつつあります。歴史教育における新しいパラダイムは他者の視点を抜きには自国の歴史をも把握できないことを認識するようになってきました。 ドイツの戦後60年の戦争責任、戦後責任の歩みと振幅を考えながら、アジアにおける「歴史の共有」の可能性を考えていきたいと思います。(後期 柳原)</p>
その他	<p>可能であれば、ドイツ文化について広範囲に触れることの出来る、「中級ドイツ語IV」も平行してとることが望ましい。</p> <p>DVD『白バラの祈り』6号館3階のマルチメディア自習室にあります。是非、自習室で見てください。</p>
ホームページタイトル	<p>{ドイツ Online, http://www.magazine-deutschland.de/jp/}</p> <p>{国際言語文化科目の概要,http://www.konan-u.ac.jp/center/kokusai/index.htm}</p> <p>{多言語学習コンテンツ,http://kccn.konan-u.ac.jp/ilc/msc/}</p>
URL	http://www.magazine-deutschland.de/jp/

授業コード	T2001		
授業科目名	言語と文化 フランス		
担当者名	中村典子(ナカムラ ノリコ)、シツシュ(シツシュ デイディエ)		
配当年次	1・2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(金曜3限)、後期(金曜3限)
特記事項	2007年度以前入学生用 履修要項の「国際言語文化科目の概要」を参照。		
オフィスアワー	木曜日15時～16時30分(中村:673研究室); 木曜日 5限(シツシュ:672研究室) (不在のこともあるので、できれば事前に連絡して下さい)		

講義の内容	<p>前期:フランスの歴史をフランス人の立場から講義し、文化的背景や人々の日常生活の変遷についても詳しく解説する。また、フランス語史にも触れる。</p> <p>後期:フランスの教育制度をはじめとして、いろいろな社会制度について基本的な理念をおさえる。また、最新のニュース映像や資料を活用して、フランス人のメンタリティーや価値観を探る。</p>
到達目標	<p>前期:フランスを中心として、ヨーロッパの歴史とその背景をさまざまな観点から学ぶことを通して、現在のフランス、ひいてはヨーロッパについての理解を深めることを目指す。</p> <p>後期:フランスのさまざまな社会制度(主として、教育・結婚・労働に関する制度)について学び、ヨーロッパ型の</p>

	福祉社会について考えると同時に、フランスの大学入試(バカロレア)で課される小論文dissertationの書き方、論理的思考方法を習得する。
講義方法	<p>前期はシツシュが、後期は中村が担当する。</p> <p>前期：各時代のキーワードを挙げ、その特徴について考察する。同時に、写真・スライド・音楽・ビデオなどを使い、各時代の文化に触れてもらった上で、話し合いも行う。</p> <p>後期：授業は原則として講義形式であるが、「映像や資料から何が読み取れるか」「日本と異なる点はどこか」「日本人が学ぶべき点は何か」等を考えてもらい、毎回、最後の15分で意見交換し、クラス全体で議論を行う。</p> <p>*「学習記録・質問カルテ」の用紙を毎回配り、回収する。</p>
準備学習	<p>前期：授業には指定の教科書を使用するので、講義の前週に通知されるテーマに関して、教科書の内容を予習してきてほしい。</p> <p>後期：各回で扱うテーマについて、インターネット等を利用して、特に知りたいこと、疑問に思うことなどをメモしてきて、授業の最後の15分の意見交換、ディスカッションの際に活用してほしい。</p> <p>また、配布されたプリントは、次回までにすべて目を通してきてほしい。</p>
成績評価	前期・後期とも、授業への積極的関与度(授業中の質問や発言、毎回授業後に記入する「学習記録・質問カルテ」から算出する)25%、個別の口頭発表25%、レポート50%の評価配分で点数をつけ、前期と後期の平均点を最終評価とする。
講義構成	<p>前期：フランスの歴史と文明～起源から現在まで (フランス語史も取り扱う)</p> <p>第1回 講義の紹介 先史時代 フランスの起源(1):ガリア(紀元前500年頃～50年) 第2回 フランスの起源(2):ローマ属州ガリアからユーク・カペー戴冠(紀元前1世紀～10世紀) 第3回 中世君主制とフランス王国の建設(11世紀～15世紀) 第4回 ルネッサンス期(16世紀) 第5回 古典主義期～絶対王政(17世紀) 第6回 ヨーロッパ啓蒙思想期のフランス(18世紀) 第7回 フランス革命(1789～1799) 第8回 ナポレオン帝国(1800～1815) 第9回 19世紀(1)立憲君主政、第2共和政(1815～1852) 第10回 19世紀(2):第2帝政、第3共和政初頭からドレフェス事件まで(1852～1894) 第11回 第3共和政～継続と危機(1894～1939) 第12回 フランスと第2次世界大戦(1939～1945) 第13回 戦後の危機と第5共和政の施行(1945～1962) 第14回 第5共和政～1962年から現在まで 総括</p> <p>後期：フランスの社会制度とフランス人のメンタリティー</p> <p>第1回 序論：フランス人の働き方と個人主義 第2回 フランスの教育制度、アメリカの教育制度 第3回 バカロレア(大学入学資格試験)、フランスの大学と学生生活 第4回 フランス式の小論文の書き方(1) 第5回 フランス式の小論文の書き方(2) 第6回 フランス式の小論文の書き方(3) 第7回 フランスの結婚制度とPACS、家族制度 第8回 労働をめぐる問題、フランスでの「客の扱い方」 第9回 日仏比較「人生において大切にしていること」 第10回 フランスの食文化、個別発表 第11回 社会における弱者への対応、個別発表 第12回 フランスの国籍要件「生地主義」、個別発表 第13回 EUの中のフランス、個別発表 第14回 総括：フランス社会から私たちが学べること</p>
教科書	前期：フランスの歴史 HISTOIRE DE FRANCE (D. ROBERT, 大嶋優) 早美出版社 また、必要に応じて、プリントを配布する。

	後期：講義に関連する資料、個別発表・レポートに役立つ資料などをプリントで配布する。
参考書・資料	任意の仏和辞書を用意すること。
講義関連事項	この科目は、国際言語科目の「国際文化コース」を選択した学生の必修科目である。 それ以外の人も、受講することはできるが、卒業に必要な単位としてはカウントされない。
担当者から一言	フランスの歴史と文化、フランス社会のあり方について詳しく学ぶことを通して、今後、どのような社会を築いていきたいか、各自、考察を深めてほしい。

授業コード	T1101		
授業科目名	国際理解（1クラス）		
担当者名	中村耕二（ナカムラ コウジ）		
配当年次	1・2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（火曜4限）、後期（火曜4限）
特記事項	2007年度以前入学生用 履修要項の「国際言語文化科目の概要」を参照。		
オフィスアワー	火曜日 4時30分（前期） 研究室 6612		

講義の内容	<p>国際理解の目的は、人類の共存のために、地球市民としての資質と自己教育力を高めることにある。21世紀に直面する人類共通のグローバルな問題をテーマ別に学習し、国際理解に対する意識を高める。教員による双方向の講義とともに、受講生は選択したテーマを問題解決の方向で調査研究する。意見発表することで地球市民としての意識を深め、行動に結びつける。</p> <p>国際理解教育の原点は異文化理解と共に、自文化への理解と表象・発信である。国際理解教育の一環として、日本文化の心、日本のシステム、グローバル時代の日本の役割についても理解を深める。</p> <p>さらに、講義では常に比較文化、比較教育の立場から ドイツ、フランス、中国、韓国、日本、英国、北米などの文化や社会と比較させながら、異文化と自文化の理解を深め、受講者の異文化に対する姿勢の変容を目指す。</p> <p>最後に受講生自ら講義と関連した国際理解・自文化理解のテーマを選び、口頭発表することで、コミュニケーション能力を養う。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 異文化理解と共に、自文化への理解と表象・発信をする能力を伸ばす 2 国際理解教育の一環として、日本文化の心、日本のシステム、グローバル時代の日本の役割についての理解力を深める 3 異文化と自文化の理解を深め、受講者の異文化に対する姿勢の変容 4 講義と関連した国際理解・自文化理解のテーマをリサーチする能力と口頭発表するコミュニケーション能力
講義方法	<p>国際社会が直面する重要なテーマをBBC、CNN、NHK(BS)などの衛星放送、NHKスペシャル、視聴覚教材を利用しながら講義する。双方向の講義を目指し、学生からの質問、批判、意見発表等を重視する。学生諸君は主体的に国際理解に関するテーマを選択し、共通テーマをグループで調査研究する。各自が選んだグローバルな問題を定義し、現状を分析し、問題の因果関係や歴史的な背景を調査し、問題解決の可能性を探り、リサーチ・ペーパーとしてまとめ上げる。テーマの内容によっては学内外の専門家や実践家を招聘する。</p> <p>取り扱うテーマ 地球環境の危機、グローバル・リタラシー（地球市民としての意識や対話能力、異文化間調整能力など）、児童強制労働、ストリート・チルドレン、核問題と平和、広島・長崎の原爆、難民、南アジアの貧困、アフリカの飢餓、開発教育とJICA（国際協力機構）青年海外協力隊、NGO・NPOと地球市民（国境なき医師団、地雷禁止国際キャンペーン、Empowerment）、多文化主義とマイノリティ、Transculturalな視野、国家を超えた多文化・多言語主義に挑戦するEU、日本文化論、日本人論（ルース・ベネディクトの「菊と刀」）に学ぶ文化相対主義、世界が見る日本人と日本社会の表象）、サイドの「オリエンタリズム：西洋中心の東洋観」など。テーマによっては国際理解・国際貢献を実践しているゲスト・スピーカーや留学生を招聘する場合もある。</p>
準備学習	日頃から、新聞の社説及ぼ、国際問題の記事を読んで背景知識を養っておくこと。
成績評価	講義への出席、発表、参加態度を重視する。毎回各講義の最後の5分でまとめて提出する講義コメント、出席を重視する。出席と各自が選んだテーマに関するリサーチ・ペーパー、講義コメント、口頭発表などを総合的に評価する。
講義構成	<ol style="list-style-type: none"> 1 地球環境とグローバル化の功罪 2 南北問題：児童強制労働と人権（子供の権利条約、少年兵） 3 アフリカの飢餓、貧困・ストリートチルドレン 4 内戦と難民（直接的暴力の戦争と構造的な暴力の貧困） 5 NGOと地球市民（NGOのゲストスピーカー招聘） （国境なき医師団・地雷禁止国際キャンペーン・Oxfamのパートナーシップ）

	6 第二次世界大戦・アジア・太平洋戦争再考 7 日本のアジア侵略の歴史、独立と戦後の対アジア外交 8 日米安保条約―日米協定―平和憲法：憲法9条 9 広島・長崎・沖縄での現実：原爆の因果関係 映像：White Light Black Rain 10 平和の出発点・広島・長崎の意義、原爆詩 11 人類愛・ヒューマニズム：マザーテレサ、キング牧師 12 グローバル・リタラシー（文化リタラシー・異文化間リタラシー） 13 俳句の心と日本の美意識 14 日本人論（日本社会の不変性と可変性、日本の近代化の要因） 15 日本文化・文学の心（もののあはれ、無常観、自然観） 16 文化相対主義者ルースベネディクト（菊と刀）とエドワード・サイードの（オリエンタリズム） 17 グローバリゼーションと日本：今後の展望（ソフトパワーとテクノデモクラシー） 18 英国人の生き方と価値観 19 文化アイデンティティの国際比較とEU市民権 20 日本の教育再考 21 世界の教育 比較教育：北米、フィンランド、英国、中国、日本 22 国際理解を実践しているゲストスピーカー（JICA職員）の招聘 23 国際理解のまとめ及び受講学生のリサーチペーパー口頭発表 24 国際理解のまとめ及び受講学生のリサーチペーパー口頭発表 25 国際理解のまとめ及び受講学生のリサーチペーパー口頭発表 26 国際理解の展望及び受講学生のリサーチペーパー口頭発表 27 国際理解の展望及び受講学生のリサーチペーパー口頭発表 28 国際理解の展望及び受講学生のリサーチペーパー口頭発表
教科書	テキスト：国際理解：多文化共生社会のための国際理解―地球市民教育を目指して― 中村耕二（甲南大学生協） テーマに関連する講義資料。
参考書・資料	前期用資料 The World Watch Reader (World Watch), Making Peace (Cambridge University Press 2000), UNDP, UNICEF, Oxfam, BBC World, CNN, NHK Special
講義関連事項	国際理解や異文化理解の観点から、地球で今起こっているグローバルな問題、南北問題、平和の問題に目を向け、関連する情報や資料を集めること。また、日本文化、日本文学、日本社会の不変性と可変性を調査しながら、日本人、日本文化のアイデンティティを考察する。
担当者から一言	1 受講学生との双方向の講義と共に、リサーチ・ペーパーを作成するための問題解決法とアカデミック・アプローチを試みる。 2 地球規模の人類共通の問題から、主体的に各自でテーマを選び、関連する資料や情報をインターネット、サイバーライブラリー、図書館などを活用して収集する。 3 共通するテーマを選んだ者同士で少人数のグループを編成し、グループごとに問題を分析し、解決策を模索し、グループ内で役割分担を決め、リサーチ・ペーパーを提出する。リサーチ・ペーパーの骨子を最後の講義で発表すること。
その他	受講生におかれては「言語と文化 ドイツ」「言語と文化 フランス」「言語と文化 中国」「言語と文化 韓国」等で学ぶ背景知識を基に地球市民としての意識や態度を育む。ローカルに又、グローバルに考え、各自の文化アイデンティティを大切にしながら、地球市民としての意識変革と行動の変化を期待する。
ホームページタイトル	{国際言語文化科目の概要, http://www.konan-u.ac.jp/center/kokusai/index.htm } {KOJI Nakamura Online Desk, http://www.kilc.konan-u.ac.jp/~koji/ } {Global Literacy, http://ehlt.flinders.edu.au/education/iej/articles/v3n5/6nakam/paper.pdf }
URL	http://www.kilc.konan-u.ac.jp/~koji/

授業コード	T1102		
授業科目名	国際理解（2クラス）		
担当者名	柳原初樹（ヤナギハラ ハツキ）、胡 金定（コ キンテイ）		
配当年次	1・2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期（金曜4限）、後期（金曜4限）
特記事項	2007年度以前入学生用 履修要項の「国際言語文化科目の概要」を参照。		

オフィスアワー	前期: 胡 金曜日昼(12:15~12:55)276号室研究室、 後期 柳原 金曜日昼休み652室
講義の内容	<p>各界で活躍する、種々の人材をゲストスピーカーとして招聘して、講義をしていただくが、前期は日本を含むアジアの政治、経済、文化、芸能、宗教などを中心に取り上げる。</p> <p>後期は、北米、ヨーロッパの外交、社会、歴史、教育を中心に取り上げるが、日本を発信するためにも日本の人権問題、環境問題、NPO活動についても焦点を当てていきたい。</p>
到達目標	<p>各界で活躍する、種々の人材をゲストスピーカーとして招聘することにより、甲南大学生の異文化理解に対する意識や異文化間調整能力を高め、同時にコミュニケーション能力も向上させる。ゲストスピーカーは、外国人の視点から、あるいは海外滞在経験を通して得られた複合的な視点から、授業中に様々な問題提起を行うであろう。それによって、受講生が今まで自明と思っていた表象や常識が揺らぎ、新たな、或いは根源的な問いと向かいあうことになる。また、質問に回答するというコミュニケーション行為を通じて応答責任能力の涵養にもつながることを到達目標とする。</p> <p>具体的には、講義を理解し、疑問点はすぐに質問し、自分の意見も表現できる能力である。</p>
講義方法	<p>前期 毎回、ゲストスピーカーの講義(約75分)を聞いた後に、質疑応答を行う。講義内容に関しては、前回の講義で次回の講義内容のレジュメや参考文献一覧を配布するので、事前にある程度調べておくこと。毎回、講義の最後に感想文を書いて提出してもらう。前期は最低4回質問してもらう。</p> <p>後期 毎回、講義の後に質疑応答の時間を設ける。講義内容に関しては、前回の講義で次回の講義内容のレジュメや参考文献一覧を配布するので、事前にある程度調べておくこと。毎回、講義の最後に感想文を書いて提出してもらう。後期も最低4回質問してもらう。</p>
準備学習	<p>前回の講義内容を復習し、次回の講義内容の予習をしておくこと。</p> <p>後期は、参考図書や映画、ドキュメンタリー、URLもMy KonanにUpするので、My Konanを定期的にチェックしておくように。</p>
成績評価	<p>前期 出席状況、講義に対する質疑応答の積極態度を40%にし、期末試験或いはレポートの結果を60%にする。</p> <p>後期 出席状況、講義に対する質疑応答の積極態度を40%にし、最終レポートの結果を30%、宿題やリサーチペーパーを30%の割合の評価で行う。</p>
講義構成	<p>前期</p> <p>4月09日 第01回 胡 金定(甲南大学教授) 前期の授業の進め方についての説明 4月16日 第02回 近藤伸二(毎日新聞論説委員) 「中国と台湾の関係について」 4月23日 第03回 近藤伸二(毎日新聞論説委員) 「日本と台湾の関係について」 4月30日 第04回 近藤伸二(毎日新聞論説委員) 「日本と中国の関係について」 5月07日 第05回 三谷俊之(『女性セブン』記者、小学館プレスセンター大阪主幹) 「日本芸能エンターテインメントの血流——マキノ三代」 5月14日 第06回 堀ちえみ(タレント) 「日本の食文化を子供たちの世代へ」 5月21日 第07回 吉村剛史(産経新聞記者) 「広がるドラッグの脅威—日本とアジアその歴史的なかわりから」 5月28日 第08回 青木謙整(東福寺宗務総長) 「禅の心について」 6月04日 第09回 西谷文和(フリージャーナリスト) 「イラクの現状報告」 6月11日 第10回 中村泰士(作詞家・作曲家、歌手) 「演歌作詞について」 6月18日 第11回 畑山博史(大阪日日新聞編集局長) 「曲がり角にきた日本のマスメディア」 6月25日 第12回 松田樹峰(易経研究者) 「易について」 7月02日 第13回 松本 修(朝日放送制作局局長プロデューサー) 「この20数年の中国とインドとのかかわり」 7月09日 第14回 胡 金定(甲南大学教授) 「前期の総復習」</p> <p>後期</p> <p>9月24日「沖縄の問題 あわせ干潟干拓訴訟」 漆谷克秀 沖縄国際大学教授 10月1日 柳原初樹 専任 後期授業の進め方についての説明 10月8日 「NPO活動について」 河井形実NPO法人大阪城甲冑隊理事長 10月15日 「イギリス人と味噌の製造」 アントニー・フレンリー大阪味噌醸造株式会社社長</p>

	<p>10月22日 「米国の報道における日本」 Eric JohnstonJapanTimes記者 10月29日 「国連と日本」 田原譲立関西プレスクラブ事務局長 11月12日 「日米関係について」 田原譲立関西プレスクラブ事務局長</p> <p>11月19日 「人権の歴史について」 柳原初樹 専任 11月26日 「原爆認定訴訟について」藤原精吾弁護士(元日弁連副会長) 12月3日 「ドイツ国際平和村でのボランティア活動」 高野理恵 12月10日 「ドイツの環境政策」ドイツ総領事 12月17日 「ドイツのビール作りと職業教育」 吉富耕二 元麒麟麦酒ドイツ駐在員、神戸工場広報部長</p> <p>12月24日 「裁判員制度の国際比較」今井 俊介弁護士</p> <p>1月7日まとめ 柳原初樹 専任</p>
教科書	前期・後期 プリント配布
参考書・資料	<p>書名:『異文化理解』 著者:青木 保 出版社:岩波書店(岩波新書) 価格:700+税金</p> <p>『日・中・韓のナショナリズム』松本健一著 第三文明社 1500円</p> <p>世界がもし100人の村だったら(単行本) 池田 香代子(著), C.ダグラス・ラミス(著) ￥ 880</p> <p>『歴史教育と教科書』岩波ブックレットNo.545、近藤孝弘著 440円</p> <p>DVD『白バラの祈り』6号館3階のマルチメディア自習室にあります。是非、自習室で見てください。</p>
講義関連事項	<p>世界が刻々変化しています。国際理解という講義ですので、常に世界情勢に目を向けてほしいです。インターネットを使って世界情勢を集めてください。(胡)</p> <p>この講義が、新聞やTV報道の背景にある文化的・歴史的な文脈や背景をも考えるきっかけになって欲しいです。(柳原)</p>
担当者から一言	コキンちゃん(胡金定の愛称)と柳原初樹先生と楽しく国際理解を学んでいきましょう。二人は、岡本近辺の居酒屋によく出没しています。見かけたら、気軽に声をかけてください!
その他	楽しく、身につく授業の雰囲気を出していきたいです。ぜひご期待してください。
ホームページタイトル	{胡金定.com,http://www.kokintei.com} {UNESCO,http://www.unesco.org/new/en/unesco/}
URL	http://www.kokintei.com

授業コード	T1201		
授業科目名	国際理解 I (1クラス)(前)		
担当者名	中村耕二(ナカムラ コウジ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜4限
特記事項	2008年度以降入学生用 履修要項の「国際言語文化科目の概要」を参照。		
オフィスアワー	火曜日 4時30分 研究室 6612		
講義の内容	<p>国際理解の目的は、人類の共存のために、地球市民としての資質と自己教育力を高めることにある。21世紀に直面する人類共通のグローバルな問題をテーマ別に学習し、国際理解に対する意識を高める。教員による双方向の講義とともに、受講生は選択したテーマを問題解決の方向で調査研究する。意見発表することで地球市民としての意識を深め、行動に結びつける。</p> <p>国際理解教育の原点は異文化理解と共に、自文化への理解と表象・発信である。国際理解教育の一環とし</p>		

	<p>て、日本文化の心、日本のシステム、グローバル時代の日本の役割についても理解を深める。</p> <p>さらに、講義では常に比較文化、比較教育の立場から ドイツ、フランス、中国、韓国、日本、英国、北米などの文化や社会と比較させながら、異文化と自文化の理解を深め、受講者の異文化に対する姿勢の変容を目指す。</p> <p>最後に受講生自ら講義と関連した国際理解・自文化理解のテーマを選び、口頭発表することで、コミュニケーション能力を養う。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 異文化理解と共に、自文化への理解と表象・発信をする能力を伸ばす 2 国際理解教育の一環として、日本文化の心、日本のシステム、グローバル時代の日本の役割についての理解力を深める 3 異文化と自文化の理解を深め、受講者の異文化に対する姿勢の変容 4 講義と関連した国際理解・自文化理解のテーマをリサーチする能力と口頭発表するコミュニケーション能力
講義方法	<p>国際社会が直面する重要なテーマを BBC, CNN, NHK(BS)などの衛星放送、NHKスペシャル、視聴覚教材を利用しながら講義する。双方向の講義を目指し、学生からの質問、批判、意見発表等を重視する。学生諸君は主体的に国際理解に関するテーマを選択し、共通テーマをグループで調査研究する。各自が選んだグローバルな問題を定義し、現状を分析し、問題の因果関係や歴史的な背景を調査し、問題解決の可能性を探り、リサーチ・ペーパーとしてまとめ上げる。テーマの内容によっては学内外の専門家や実践家を 招聘する。</p> <p>取り扱うテーマ 地球環境の危機、グローバル・リタラシー(地球市民としての意識や対話能力、異文化間調整能力など)、児童強制労働、ストリート・チルドレン、核問題と平和、広島・長崎の原爆、難民、南アジアの貧困、アフリカの飢餓、開発教育とJICA(国際協力機構)青年海外協力隊、NGO・NPOと地球市民(国境なき医師団、地雷禁止国際キャンペーン、Empowerment)、多文化主義とマイノリティ、Transculturalな視野、国家を超えた多文化・多言語主義に挑戦するEU、日本文化論、日本人論(ルース・ベネディクトの「菊と刀」に学ぶ文化 相対主義、世界が見る日本人と日本社会の表象)、サイードの「オリエンタリズム:西洋中心の東洋観」など テーマによっては国際理解・国際貢献を実践しているゲスト・スピーカーや留学生を招聘する場合もある。</p>
準備学習	日頃から、新聞の社説、国際問題の記事をよく読んで、背景知識を養うこと。
成績評価	講義への出席、発表、参加態度を重視する。毎回各講義の最後の5分でまとめて提出する講義コメント、出席を重視する。出席と各自が選んだテーマに関するリサーチ・ペーパー、講義コメント、口頭発表などを総合的に評価する。
講義構成	<ol style="list-style-type: none"> 1 地球環境と グローバリゼーションの功罪 2 南北問題:児童強制労働と人権(子供の権利条約、少年兵) 3 アフリカの飢餓、貧困・ストリートチルドレン 4 内戦と難民(直接的暴力の戦争と構造的な暴力の貧困) 5 NGOと地球市民(NGOのゲストスピーカー招聘) (国境なき医師団・地雷禁止国際キャンペーン・ Oxfamのパートナーシップ) 6 第二次世界大戦・アジア・太平洋戦争再考 7 日本のアジア侵略の歴史、独立と戦後の対アジア外交 8 日米安保条約一日米協定一平和憲法:憲法9条 9 広島・長崎・沖縄での現実:原爆の因果関係 映像:White Light Black Rain 10 平和の出発点・広島・長崎の意義、原爆詩 11 人類愛・ヒューマニズム:マザーテレサ、キング牧師 12 グローバル・リタラシー(文化リタラシー・異文化間リタラシー) 13 俳句の心と日本の美意識 14 日本人論(日本社会の不変性と可変性、日本の近代化の要因)
教科書	<p>テキスト:国際理解:多文化共生社会のための国際理解—地球市民教育を目指して— 中村耕二 (甲南大学生協)</p> <p>テーマに関連する講義資料</p>
参考書・資料	<p>前期用資料</p> <p>The World Watch Reader (World Watch), Making Peace (Cambridge University Press 2000), UNDP, UNICEF, Oxfam, BBC World, CNN, NHK Special</p>
講義関連事項	国際理解や異文化理解の観点から、地球で今起っているグローバルな問題、南北問題、平和の問題に目をむけ、関連する情報や資料を集めること。また、日本文化、日本文学、日本社会の不変性と可変性を調査しながら、日本人、日本文化のアイデンティティを考察する。
担当者から一言	<p>国際理解 I (1クラス)受講者は継続して後期の国際理解II (1クラス)を継続履修することが望ましい。</p> <p>1 受講学生との双方向の講義と共に、リサーチ・ペーパーを作成するための問題解決法とアカデミック・アプ</p>

	<p>ローチを試みる。</p> <p>2. 地球規模の人類共通の問題から、主体的に各自でテーマを選び、関連する資料や情報をインターネット、サイバーライブラリー、図書館などを活用して収集する。</p> <p>3 共通するテーマを選んだ者同士で少人数のグループを編成し、グループごとに問題を分析し、解決策を模索し、グループ内で役割分担を決め、リサーチ・ペーパーを提出する。リサーチ・ペーパーの骨子を最後の講義で発表すること。</p>
その他	<p>受講生におかれては「言語と文化 ドイツ」「言語と文化 フランス」「言語と文化 中国」「言語と文化 韓国」等で学ぶ背景知識を基に地球市民としての意識や態度を育む。ローカルに又、グローバルに考え、各自の文化アイデンティティを大切にしながら、地球市民としての意識変革と行動の変化を期待する。</p>
ホームページタイトル	<p>{国際言語文化科目の概要http://www.konan-u.ac.jp/center/kokusai/index.htm}</p> <p>{KOJI Nakamura Online Desk.,http://www.kilc.konan-u.ac.jp/~koji/}</p> <p>{Global Literacy,http://ehlt.flinders.edu.au/education/iej/articles/v3n5/6nakam/paper.pdf}</p>
URL	http://www.kilc.konan-u.ac.jp/~koji/

授業コード	T1202		
授業科目名	国際理解 I (2クラス)(前)		
担当者名	胡 金定(コ キンテイ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜4限
特記事項	2008年度以降入学生用 履修要項の「国際言語文化科目の概要」を参照。		
オフィスアワー	金曜日昼(12:15~12:55) 2号館7階6号室研究室(276)		

講義の内容	<p>各界で活躍する、種々の人材をゲストスピーカーとして招聘して、講義をしていただくが、前期は日本を含むアジアの政治、経済、文化、芸能、宗教などを中心に取り上げる。</p>		
到達目標	<p>各界で活躍する、種々の人材をゲストスピーカーとして招聘することにより、甲南大学生の異文化理解に対する意識や異文化間調整能力を高め、同時にコミュニケーション能力も向上させる。ゲストスピーカーは、外国人の視点から、あるいは海外滞在経験を通して得られた複合的な視点から、授業中に様々な問題提起を行うであろう。それによって、受講生が今まで自明と思っていた表象や常識が揺らぎ、新たな、或いは根源的な問いと向かいあうことになる。また、質問に回答するというコミュニケーション行為を通じて応答責任能力の涵養にもつながることを到達目標とする。</p>		
講義方法	<p>毎回、ゲストスピーカーの講義(約75分)を聞いた後に、質疑応答を行う。 講義の内容をメモしながら、毎回、講義最後に、内容に関して感想文を書いて、提出してもらう。</p>		
準備学習	<p>前回の講義内容を復習し、次回の講義内容の予習しておくこと。</p>		
成績評価	<p>出席状況、講義に対する質疑応答の積極態度を40%にし、期末試験或いはレポートの結果を60%にする。</p>		
講義構成	<p>前期</p> <p>4月09日 第01回 胡 金定(甲南大学教授) 前期の授業の進め方についての説明</p> <p>4月16日 第02回 近藤伸二(毎日新聞論説委員) 「中国と台湾の関係について」</p> <p>4月23日 第03回 近藤伸二(毎日新聞論説委員) 「日本と台湾の関係について」</p> <p>4月30日 第04回 近藤伸二(毎日新聞論説委員) 「日本と中国の関係について」</p> <p>5月07日 第05回 三谷俊之(『女性セブン』記者、小学館プレスセンター大阪主幹) 「日本芸能エンターテイメントの血流-----マキノ三代」</p> <p>5月14日 第06回 堀ちえみ(タレント) 「日本の食文化を子供たちの世代へ」</p> <p>5月21日 第07回 吉村剛史(産経新聞記者) 「広がるドラッグの脅威ー日本とアジアその歴史的なかかわりから」</p> <p>5月28日 第08回 青木謙整(東福寺宗務総長) 「禅の心について」</p> <p>6月04日 第09回 西谷文和(フリージャーナリスト) 「イラクの現状報告」</p> <p>6月11日 第10回 中村泰士(作詞家・作曲家、歌手) 「演歌作詞について」</p> <p>6月18日 第11回 畑山博史(大阪日日新聞編集局長) 「曲がり角にきた日本のマスメディア」</p> <p>6月25日 第12回 松田樹峰(易経研究者) 「易について」</p> <p>7月02日 第13回 松本 修(朝日放送制作局局長プロデューサー)</p>		

	「この20数年の中国とインドとのかかわり」 7月09日 第14回 胡 金定(甲南大学教授) 「前期の総復習」
教科書	教科書: プリント配布
参考書・資料	参考書・資料 書名:『異文化理解』 著者:青木 保 出版社:岩波書店(岩波新書) 価格:700+税金
講義関連事項	世界が刻々変化しています。国際理解という講義ですので、常に世界情勢に目を向けてほしいです。インターネットを使って世界情勢を集めてください。
担当者から一言	コキンちゃん(胡金定の愛称)と楽しく国際理解を学んでいきましょう。いつでも研究室に訪ねてください。
その他	楽しく、身につく授業の雰囲気を出していきたいです。ぜひご期待してください
ホームページタイトル	胡金定.COM
URL	http://www.kokintei.com

授業コード	T1301		
授業科目名	国際理解 II (1クラス)(後)		
担当者名	中村耕二(ナカムラ コウジ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜4限
特記事項	2008年度以降入学生用 履修要項の「国際言語文化科目の概要」を参照。		
オフィスアワー	火曜日 4時30分(前期) 研究室 6612		

講義の内容	<p>国際理解の目的は、人類の共存のために、地球市民としての資質と自己教育力を高めることにある。21世紀に直面する人類共通のグローバルな問題をテーマ別に学習し、国際理解に対する意識を高める。教員による双方向の講義とともに、受講生は選択したテーマを問題解決の方向で調査研究する。意見発表することで地球市民としての意識を深め、行動に結びつける。</p> <p>国際理解教育の原点は異文化理解と共に、自文化への理解と表象・発信である。国際理解教育の一環として、日本文化の心、日本のシステム、グローバル時代の日本の役割についても理解を深める。</p> <p>さらに、講義では常に比較文化、比較教育の立場から ドイツ、フランス、中国、韓国、日本、英国、北米などの文化や社会と比較させながら、異文化と自文化の理解を深め、受講者の異文化に対する姿勢の変容を目指す。</p> <p>最後に受講生自ら講義と関連した国際理解・自文化理解のテーマを選び、口頭発表することで、コミュニケーション能力を養う。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 異文化理解と共に、自文化への理解と表象・発信をする能力を伸ばす 2 国際理解教育の一環として、日本文化の心、日本のシステム、グローバル時代の日本の役割についての理解力を深める 3 異文化と自文化の理解を深め、受講者の異文化に対する姿勢の変容 4 講義と関連した国際理解・自文化理解のテーマをリサーチする能力と口頭発表するコミュニケーション能力
講義方法	<p>国際社会が直面する重要なテーマを BBC, CNN, NHK(BS)などの衛星放送、NHKスペシャル、視聴覚教材を利用しながら講義する。双方向の講義を目指し、学生からの質問、批判、意見発表等を重視する。学生諸君は主体的に国際理解に関するテーマを選択し、共通テーマをグループで調査研究する。各自が選んだグローバルな問題を定義し、現状を分析し、問題の因果関係や歴史的な背景を調査し、問題解決の可能性を探り、リサーチペーパーとしてまとめ上げる。テーマの内容によっては学内外の専門家や実践家を 招聘する。</p> <p>取り扱うテーマ 地球環境の危機、グローバル・リタラシー(地球市民としての意識や対話能力、異文化間調整能力など)、児童強制労働、ストリート・チルドレン、核問題と平和、広島・長崎の原爆、難民、南アジアの貧困、アフリカの飢餓、開発教育とJICA(国際協力機構)青年海外協力隊、NGO・NPOと地球市民(国境なき医師団、地雷禁止国際キャンペーン、Empowerment)、多文化主義とマイノリティ、Transculturalな視野、国家を超えた多文化・多言語主義に挑戦するEU、日本文化論、日本人論(ルース・ベネディクトの「菊と刀」)に学ぶ文化 相対主義、世界が見る日本人と日本社会の表象)、サイドの「オリエンタリズム:西洋中心の東洋観」など テーマによっては国際理解・国際貢献を実践しているゲスト・スピーカーや留学生を招聘する場合もある。</p>
準備学習	<p>前期で学習した国際理解の各テーマと関連して、自分の興味関心のあるテーマを選び、インターネットや図書館の資料を基に、リサーチペーパーを書く準備をすること。</p>

成績評価	講義への出席、発表、参加態度を重視する。毎回各講義の最後の5分でまとめて提出する講義コメント、出席を重視する。出席と各自が選んだテーマに関するリサーチ・ペーパー、講義コメント、口頭発表などを総合的に評価する。
講義構成	<ol style="list-style-type: none"> 1 地球環境とグローバリゼーションの功罪 2 南北問題:児童強制労働と人権(子供の権利条約、少年兵) 3 アフリカの飢餓、貧困・ストリートチルドレン 4 内戦と難民(直接的暴力の戦争と構造的な暴力の貧困) 5 NGOと地球市民(NGOのゲストスピーカー招聘) (国境なき医師団・地雷禁止国際キャンペーン・Oxfamのパートナーシップ) 6 第二次世界大戦・アジア・太平洋戦争再考 7 日本のアジア侵略の歴史、独立と戦後の対アジア外交 8 日米安保条約-日米協定-平和憲法:憲法9条 9 広島・長崎・沖縄での現実:原爆の因果関係 映像:White Light Black Rain 10 平和の出発点・広島・長崎の意義、原爆詩 11 人類愛・ヒューマニズム:マザーテレサ、キング牧師 12 グローバル・リタラシー(文化リタラシー・異文化間リタラシー) 13 俳句の心と日本の美意識 14 日本人論(日本社会の不変性と可変性、日本の近代化の要因) 15 日本文化・文学の心(もののあはれ、無常観、自然観) 16 文化相対主義者ルースベネディクト(菊と刀)とエドワード・サイードの(オリエンタリズム) 17 グローバリゼーションと日本:今後の展望 (ソフトパワーとテクノデモクラシー) 18 英国人の生き方と価値観 19 文化アイデンティティの国際比較とEU市民権 20 日本の教育再考 21 世界の教育 比較教育:北米、フィンランド、英国、中国、日本 22 国際理解を実践しているゲストスピーカー(JICA職員)の招聘 23 国際理解のまとめ及び受講学生のリサーチペーパー口頭発表 24 国際理解のまとめ及び受講学生のリサーチペーパー口頭発表 25 国際理解のまとめ及び受講学生のリサーチペーパー口頭発表 26 国際理解の展望及び受講学生のリサーチペーパー口頭発表 27 国際理解の展望及び受講学生のリサーチペーパー口頭発表 28 国際理解の展望及び受講学生のリサーチペーパー口頭発表 <p>(参考) 国際理解 I (1クラス) 講義1-14 国際理解 II (1クラス) 講義15-28</p>
教科書	テキスト:国際理解:多文化共生社会のための国際理解-地球市民教育を目指して- 中村耕二 (甲南大学生協) テーマに関連する講義資料を配布する。
参考書・資料	The World Watch Reader (World Watch), Making Peace (Cambridge University Press 2000), UNDP, UNICEF, Oxfam, BBC World, CNN, NHK Special
講義関連事項	国際理解や異文化理解の観点から、地球で今起きているグローバルな問題、南北問題、平和の問題に目を向け、関連する情報や資料を集めること。また、日本文化、日本文学、日本社会の不変性と可変性を調査しながら、日本人、日本文化のアイデンティティを考察する。
担当者から一言	<ol style="list-style-type: none"> 1 受講学生との双方向の講義と共に、リサーチ・ペーパーを作成するための問題解決法とアカデミック・アプローチを試みる。 2 地球規模の人類共通の問題から、主体的に各自でテーマを選び、関連する資料や情報をインターネット、サイバーライブラリー、図書館などを活用して収集する。 3 共通するテーマを選んだ者同士で少人数のグループを編成し、グループごとに問題を分析し、解決策を模索し、グループ内で役割分担を決め、リサーチ・ペーパーを提出する。リサーチ・ペーパーの骨子を最後の講義で発表すること。
その他	受講生におかれては「言語と文化 ドイツ」「言語と文化 フランス」「言語と文化 中国」「言語と文化 韓国」等で学ぶ背景知識を基に地球市民としての意識や態度を育む。ローカルに又、グローバルに考え、各自の文化アイデンティティを大切にしながら、地球市民としての意識変革と行動の変化を期待する。
ホームページタイトル	{国際言語文化科目の概要, http://www.konan-u.ac.jp/center/kokusai/index.htm } {KOJI Nakamura Online Desk, http://www.kilc.konan-u.ac.jp/~koji/ } {Global Literacy, http://ehlt.flinders.edu.au/education/iej/articles/v3n5/6nakam/paper.pdf }
URL	http://www.kilc.konan-u.ac.jp/~koji/

授業コード	T1302		
授業科目名	国際理解 II (2クラス)(後)		
担当者名	柳原初樹(ヤナギハラ ハツキ)		
配当年次	1・2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜4限
特記事項	2008年度以降入学生用 履修要項の「国際言語文化科目の概要」を参照。		
オフィスアワー	隔週水曜日昼休み(12時20分から)652教室		

講義の内容	後期は、北米、ヨーロッパの外交、社会、歴史、教育を中心に取り上げるが、日本を発信するためにも日本の人権問題、環境問題、NPO活動についても焦点を当てていきたい。
到達目標	各界で活躍する、種々の人材をゲストスピーカーとして招聘することにより、甲南大学生の異文化理解に対する意識や異文化間調整能力を高め、同時にコミュニケーション能力も向上させる。ゲストスピーカーは、外国人の視点から、あるいは海外滞在経験を通して得られた複合的な視点から、授業中に様々な問題提起を行うであろう。それによって、受講生が今まで自明と思っていた表象や常識が揺らぎ、新たな、或いは根源的な問いと向かいあうことになろう。また、質問に应答するというコミュニケーション行為を通じて应答責任能力の涵養にもつながることを到達目標とする。 具体的には、講義を理解し、疑問点はすぐに質問し、自分の意見も表現できる能力である。
講義方法	後期 毎回、講義の後に質疑応答の時間を設ける。講義内容に関しては、前回の講義で次回の講義内容のレジュメや参考文献一覧を配布するので、事前にある程度調べておくこと。毎回、講義の最後に感想文を書いて提出してもらう。後期も最低4回質問してもらう。
準備学習	前回の講義内容を復習し、次回の講義内容の予習をしておくこと。 後期は、参考図書や映画、ドキュメンタリー、URLもMy KonanにUpするので、My Konanを定期的にチェックしておくように。
成績評価	後期 出席状況、講義に対する質疑応答の積極態度を40%にし、最終レポートの結果を30%、宿題やリサーチペーパーを30%の割合の評価で行う。
講義構成	後期 9月24日「沖縄の問題 あわせ干潟干拓訴訟」 漆谷克秀 沖縄国際大学教授 10月1日 柳原初樹 専任 後期授業の進め方についての説明 10月8日 「NPO活動について」 河井形実 NPO法人大阪城甲冑隊理事長 10月15日 「イギリス人と味噌の製造」 アントニー・フレンリー 大阪味噌醸造株式会社社長 10月22日 「米国の報道における日本」 Eric Johnston JapanTimes記者 10月29日 「国連と日本」 田原譲立 関西プレスクラブ事務局長 11月12日 「日米関係について」 田原譲立 関西プレスクラブ事務局長 11月19日 「人権の歴史について」 柳原初樹 専任 11月26日 「原爆認定訴訟について」 藤原精吾 弁護士(元日弁連副会長) 12月3日 「ドイツ国際平和村でのボランティア活動」 高野理恵 12月10日 「ドイツの環境政策」 ドイツ総領事 12月17日 「ドイツのビール作りと職業教育」 吉富耕二 元麒麟麦酒ドイツ駐在員、神戸工場広報部長 12月24日 「裁判員制度の国際比較」 今井 俊介 弁護士 1月7日 まとめ 柳原初樹 専任
教科書	プリント配布 My Konanを毎回チェックすること。
参考書・資料	『日・中・韓のナショナリズム』松本健一著 第三文明社 1500円 世界がもし100人の村だったら(単行本) 池田 香代子(著), C.ダグラス・ラミス(著) ¥ 880

	『歴史教育と教科書』岩波ブックレットNo.545、近藤孝弘著 440円 DVD『白バラの祈り』6号館3階のマルチメディア自習室にあります。是非、自習室で見てください。
講義関連事項	世界が刻々変化しています。国際理解という講義ですので、常に世界情勢に目を向けてほしいです。インターネットを使って世界情勢を集めてください。 この講義が、新聞やTV報道の背景にある文化的・歴史的な文脈や背景をも考えるきっかけになって欲しいです。
担当者から一言	楽しく、身につく授業の雰囲気を出していきたいです。ぜひご期待してください。
ホームページタイトル	{UNESCO (United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization), http://www.unesco.org/new/en/unesco/ } {外務省, http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/china/rekishi_kk.html }
URL	http://www.unesco.org/new/en/unesco/